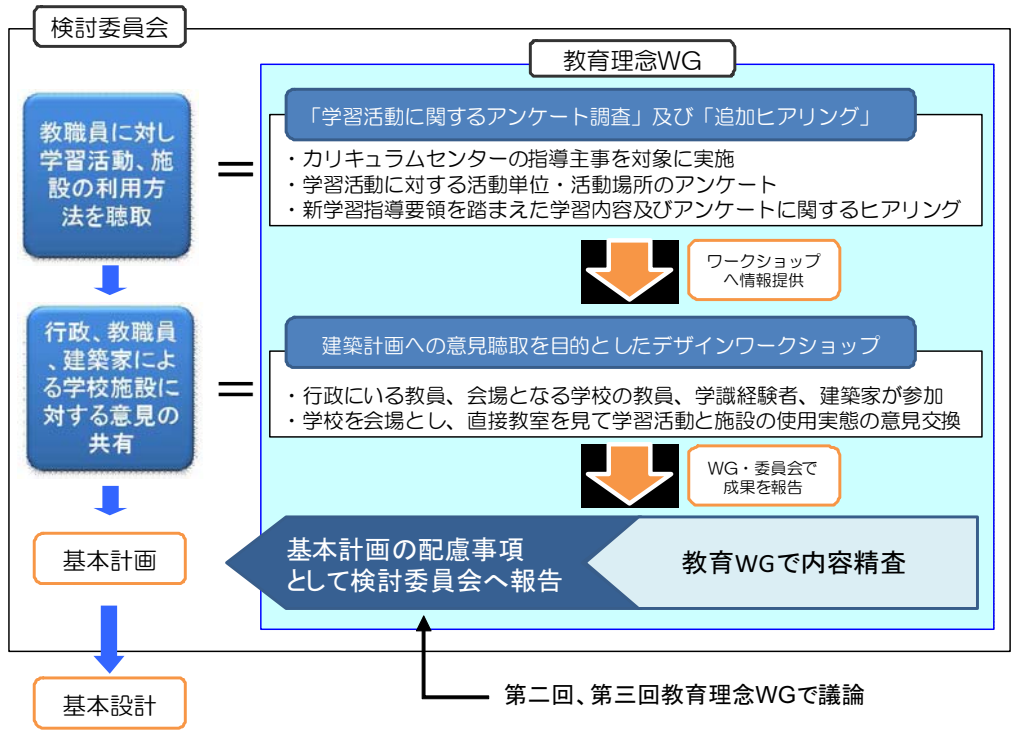


アンケート(ヒアリング)、ワークショップを経ての新設小学校における諸室の配慮事項

1. 諸室の計画における方針(案)

「学習活動に関するアンケート調査」及び「追加ヒアリング」、デザインワークショップを経て、諸室の今後の計画に際しての方針を以下のように考え、この方針(案)にのっとり、本基本計画策定に向けた意見の抽出、計画に際しての配慮事項の整理を行っていく。

- 普通教室廻り： 学級数の変動に対して柔軟性が高く、多様な学習活動を安全・快適にサポートする空間
- 職員室廻り： 教職員のコミュニケーション活性化と今日的課題に対応した機能への配慮
- 理科室廻り： 理科教育の拠点校として理科教育の充実と教員研修機能を有する計画
- メディアセンター廻り： 将来的な ICT 環境による学習活動の変化に対応した居心地の良い調べ学習空間の創出



2. 諸室の考え方 (次頁以降)

普通教室まわりの考え方について「基本構想」および、「ヒアリング・ワークショップ」で出された意見の整理

【基本構想】

普通教室の考え方

- ・ 教室の寸法は、8.0m×8.0m（壁芯）を基本として、児童の体躯の向上や新JIS規格の机（65cm×45cm）、多様な学習形態への対応に配慮する。
- ・ 一学年の普通教室は、原則として同一階にまとめて配置できる構成とすることが望ましい。
- ・ 本校では大幅な児童数の変化が見込まれており、普通教室及び付随する多目的スペース等は、学級数の変動や学年配置の変更にも対応できる設えとすることが望ましい。
- ・ 自然の通風採光を活かすとともに、季節に応じ日射の取得・遮蔽が可能な配置及び設えとする。
- ・ 最大限の昼光利用が可能な設えとし、照明エネルギー削減に努める。
- ・ 普通教室内には、適切な容量の収納スペースを確保する。
- ・ 温かみのある木の仕上げや家具とするため、内装の木質化を検討する。

多目的スペースの考え方

- ・ 普通教室に隣接した多目的スペースは、高度で多様な学習を進める上で、様々な形態の学習に対応することのできる場として、利用しやすい形状・適正な面積（隣接する普通教室と同程度の規模を目安とする）での設置を検討する。
- ・ 学年集会や総合的な学習の時間、休み時間の児童交流などでの活用に十分な広さとまとまりのある空間を設ける。
- ・ 普通教室と多目的スペースとの間仕切りは、開閉が容易で遮音性の高い可動間仕切りとし、学習の展開に合わせた様々な活動やグループ学習などの多様な利用形態が可能なフレキシビリティのある設えを検討することとし、教室と多目的スペースを区画した状態での使用にも十分配慮する。
- ・ 少人数学習・習熟度別学習・個別学習・相談等、様々な用途に対応可能なスペースとして計画する。
- ・ 学習スペースとして教室と同等の照度を確保するものとし、普通教室同様に見える限りの昼光利用を図る。
- ・ 児童の発達段階に応じて普通教室内または多目的スペース内のどちらに教師コーナーを配置するか検討する。
- ・ 多目的スペース内には、各教室から利用しやすい位置に、適切な規模の教材室あるいは教材コーナーを設ける。多目的スペース内に教師コーナーを設ける場合は、隣接させることが望ましい。
- ・ 児童の居場所となるデンや畳コーナー、図書・PCコーナー、クールダウンのためのスペースの設置を検討する。これらは室として固定的な設えとするのではなく、児童の発達段階に応じた空間づくりができるよう、家具等による可変的な仕組みを検討する。
- ・ ・水まわりを設置する。

【ヒアリング、ワークショップでの主な意見】

学年ユニットの基本的な考え方

- ・ 建物としてはシンプルな空間をつくり、運営側が児童の実態に合わせてつくりこめるような学校がよい。
- ・ クラス数が4～6となった時に児童の空間認識能力を超えた超過大規模の空間をつくらないような配慮が必要である。
- ・ 教室と連続した多目的スペースを設ける場合は、騒音への十分な配慮が必要。
- ・ 少人数分割授業を行うことを想定した施設構成とする必要がある。
- ・ 家具が将来的に70cm×50cmになった時のことを想定した教室の広さを検討する必要がある。

普通教室の設え

- ・ 低学年の普通教室内には手洗い等のできる流しが必要。
- ・ 低学年は普通教室で音楽の授業を行うことが多いが、オープン型の教室だと音が筒抜けで難しい。
- ・ 普通教室まわりでの児童の持ち物用の十分な収納スペースをどのように確保するかが課題。
- ・ 天吊りのプロジェクターや普通教室まわりでの（できれば全館）の無線LANといったICT機器の充実が必要。
- ・ 授業時の資料掲示スペース不足。黒板が隠れてしまう。
- ・ 安全性に配慮されていれば児童が外気を感じられるバルコニーのような空間は良いと思う。（他クラスからは連続していない方が良い。）

多目的スペースの設え

- ・ 学年でダイナミックに総合的な活動を行う時、模造紙を広げて活動する時などにおいては、多目的スペースは魅力的な空間である。
- ・ 多目的スペースには個人机ではできない活動をするために大型テーブルが必要。
- ・ 多目的スペースの床仕上げは衛生上の問題からカーペットは避けた方がよい。一方で、フローリングとする場合は騒音への配慮が必要となる。
- ・ 低学年の共用部には床座ができるコーナーが欲しい。
- ・ デンは特に低学年の児童にとっては非常に有用性が高い空間。
- ・ 図書コーナーでは近接してPCやタブレットを使用できる環境があると良い。
- ・ 教材庫が学年ユニット内にあるのは良いと思う。
- ・ 他学年に気を遣わずに教材作成等の作業出来るスペースが必要という意味でも、学年ユニット内に教師コーナーがあるのは良い。

- 学年ユニットは、多様な学年運営や学習活動のスタイルに合わせてられるよう、シンプルかつフレキシビリティに優れた空間として計画する。
- 多目的スペースは学年集会や、より活動的な学習も行えるようフリーなオープンスペースを確保する一方、児童の空間スケールを逸脱した過大な空間とならないよう視覚的な分節を図る等の配慮を行う。
- 多目的スペースを介した普通教室間の遮音性能に十分配慮する。
（基本構想の追認）
70cm×50cmでの広さの検討。
⇒モデルプランでは普通教室の横幅を、低学年で240cm、中高学年で80cmほど広げて検討。
- 低学年の普通教室内には流しを設置する。
（基本構想：普通教室－多目的スペース間を間仕切れる建具の設置）
加えて、仕上材などによる遮音性能に配慮。
- （基本構想：適切な容量の収納スペース）
⇒教室後ろの収納棚、パーティションとなる可動収納棚、共用部のハンガータイプの収納など
普通教室でのプロジェクタや無線LAN等のICT機器の設置を検討する。
- 黒板の脇に資料掲示用フック等の設備を設置する。
- 落下等の危険のない安全性に配慮したバルコニーの設置を検討する。

（基本構想の追認）
多目的スペースにはグループ学習、少人数学習等の規模に応じて適した使い方ができる可動式の家具を設置する。
多目的スペースの床仕上げは衛生面やメンテナンス性に配慮した素材とする。また、模造紙等を使った床での作業性にも配慮することが望ましい。音の反射率の高い素材を使用する場合は、部屋全体での遮音性能にも配慮する。
低学年用多目的スペース内には図書コーナー等と関連付けた床座ができるスペース（畳屋カーペット等）を設置することが望ましい。
低学年ユニットでは、普通教室に隣接してデンを設けることとし、教員が出入りを把握できるよう普通教室側に入出口を設ける。
中高学年では、多目的スペース内の普通教室とは離れた場所に設置を検討する。
図書コーナーに近接しPCコーナーの設置
or
学年ユニット内を無線LAN対応としてどこでもタブレットが使える環境
（基本構想の追認）
中高学年ユニットでは、多目的スペース内に教師コーナーを配置する。